

ワルシャワ美術アカデミー月例報告書【4月】

● 大学の授業

デザインの演習の授業では、相変わらずゼミのような形で課題を進めている。週に2日ほど教授に相談の予約を取れる日があり、その日に各自の課題について個人面談をしに行っている。

また、留学生向けのプログラムとしてポーランド語の授業も受講している。卒業やプログラムのために必須の科目というわけではないが、現地での生活を豊かにするために選択した。ポーランド語は発音や格変化が非常に複雑で習得の難易度はかなり高いと感じるが、基本的な言葉を学べて非常に楽しい。授業で習った挨拶や簡単な単語を、日常の買い物などで少しずつ実践している。

● 生活

1. 気候

3月中旬から徐々に暖かくなり始めていたが、4月に入るとワルシャワの気候は一気に春へと変化した。半袖を着たり、長そでを着て上着も来たりしていて、日の気温の変化が激しい。しかし、ポーランド人に聞くと、今年のワルシャワは例年よりも寒いようだ。また、日照時間が劇的に伸び、夜の8時頃まで外が明るいことには驚かされる。

2. 自然

ワルシャワの街を歩いていると、街中でリンゴの木の花がたくさん咲いており、現地の人々はその開花を楽しそうに眺めている様子は、日本で言うところの「桜」のようだと感じた。また、都市の中に豊かな緑地が組み込まれており、街中のちょっとした緑がある場所で野生のハリネズミを見かける機会があった。日本の都市部では見られないような野生動物との距離の近さを肌で感じた。また、友人に聞くと、家の庭にハリネズミが住んでいるようでとても驚いた。

3. 買い物、ご飯

ポーランドはリンゴの生産量が多く、市場やスーパーでは1キロあたり5PLN（日本円で約200円前後）と安く手に入る。日本ではリンゴを個単位で高く買うイメージが強かったため、こちらの手軽に大量に果物を楽しめる食生活は非常にうらやましい。今月は、wolominという町の市場に友人と行くことができた。

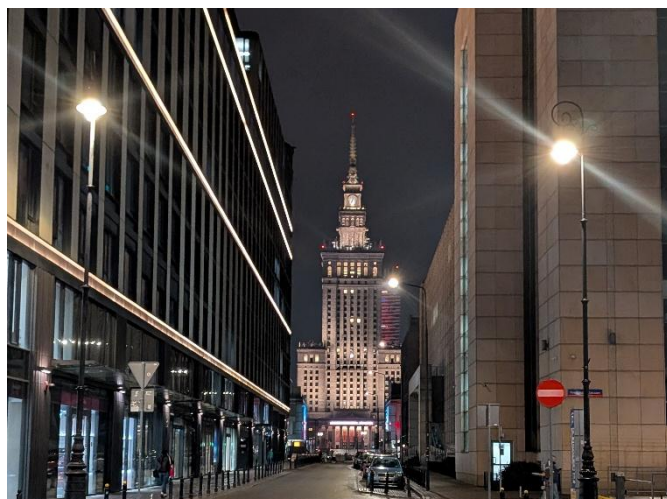
また、Bar mleczny（ミルクバー）と呼ばれる、ポーランドの伝統的な大衆食堂をよく利用するようになった。ポーランドで外食は高いが、ここでは比較的安く食事を楽しむことができる。ピエロギという餃子のような形の料理やナレシニキというクレープの料理をよく食べる。

4. フラットシェア

家賃を毎月初めの週に口座に振り込まないといけない。しかし、日本のカードではATMから口座に振り込めないらしく郵便局で支払っている。郵便局においても中年以上の人は英語を話せない人が多いので翻訳アプリを使って何とかしている。ポーランドに来る前にwiseという国際送金等ができるサービスに登録しておけばよかったと思っている。



wolomin の市場



文化科学宮殿



リンゴの木



ピエロギとナレシニキ（Bar mleczny にて）